

第33回産業科学フォーラム開催報告

日時：平成29年12月15日（金）14時～15時25分

場所：名古屋大学 VBL棟（4階）セミナールーム

講師：宮尾 克 上席研究員

講演タイトル：「3D立体映像の現状とヘッドマウント・ディスプレイのあり方」

10月2日（月）に開催した産業科学フォーラム2017では「情報通信をめぐる動向」で、ユーザが感じるインターネット品質（講師：田坂修二 所員）、メカトロニクスにおけるマイコン（講師：西堀賢司 上席研究員）、無線遠隔制御の高信頼化（講師：片山正昭 名古屋大学教授）の講演が行われ高度情報化社会における情報・通信の役割についての理解を高めることができた。今回は、ユーザビリティの評価を中心とした講演であった。

最初は、シースルー・スマートグラスによる3D立体映像の飛び出し量に伴う目の調節能への影響を明らかにする実験とそのデータ解析からの日本の安全ガイドラインの問題点が提起された。討論でもリスクと利得のバランスを考慮した適正な規制の必要性が議論された。

次いで、シースルー・スマートグラスの利用について、拡張現実（Augmented Reality）技術の利用における問題点が紹介された。特に映像コンテンツの表示位置と目（特に水晶体調節焦点）の影響を調べる実験において、水晶体の焦点が仮想位置に向かうことが示された。

最後に、拡張現実画像を用いたシースルー・スマートグラスの作業効果について紹介され、画像位置が作業場所の若干手前に来ることの重要性について説明されたが、メーカーの対応や規制の問題など、困難は多そうに思われた。討論では、進展が見込めるシースルー・スマートグラスとその関連技術を取り巻く環境が日本で厳しいことについての研究部上席研究員の役割などが議論された。



講師の宮尾克 上席研究員



会場風景

講演終了後、上席研究員懇談会が開催され、日本における高等教育の現状と上席研究員の果たす役割について自由討論が行われた。研究レベルの維持には寄付文化を根付かせる必要性があるのでは、研究費の重点配分は現状でよいのか、AI化に伴う人材育成への対処は、などの問題が提起され、活発な議論が交わされた。

(文責 山根 隆)